令和５年度　事業報告書

令和５年４月１日～令和６年３月 31 日

Ⅰ　全体事業概要

令和５年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が落ち着きつつあったが、引き続く円安の影響も受け、原材料価格の高騰が続いています。本年の気象は、６月の線状降水帯による豪雨をはじめ、極端な大雨と梅雨明けの少雨による干ばつ、冬季に入っては、暖冬の傾向の中で、気温の上げ下げが多く、農産物の栽培には苦慮する年となった。

農地利用集積事業では、令和元年５月に「農地中間管理事業に関する法律」が改正され、引き続き農地利用集積円滑化事業から農地中間管理事業への移行事務を行ない、農地利用集積円滑化事業の保有面積は 20ha となり、ピーク時である平成 30 年の 277ha に対し１割以下となっている。新規の案件や円滑化事業による満期を迎えた農地等を中心に農地中間管理事業への移行を行い、機構保有面積は 331ha となっている。本年度は、大口の借受者の死亡による契約の転貸や中断が相次いだ。依然と水田経営は厳しく、地代変更や、借受者の高齢化等による返還案件が増えており、今後限られた担い手への集中を円滑に行うために、地域計画に基づいた面的集積等、借受しやすい環境を整え、地域ごとの将来像を描くことが喫緊の課題となっている。

農作業受委託事業では、農業機械が更新できない小規模農家や、堆肥散布希望農家からの受託業務を継続した。農地を賃貸借に移行する農家が増加していることで、受託面積は減少傾向であり、担い手と連携して事業を進めていく。

担い手育成研修事業では、農業次世代人材育成支援事業によるいちご専攻研修生３名が継続し、３月に就農することができた。毎週木曜日に行う公社研修では、農場での実践研修のほか、自立経営に向けた座学での講義や、財務諸表の研修を行った。

新たな担い手育成支援においては、担い手協議会の就農林相談会を始め、新農業人フェアや新城市単独のアグリチャレンジ相談会、現地説明会等を開催した。雇用環境が好転している影響で、相談者が減少している。令和６年度はトマト専攻研修生１名が研修を開始することになっている。

産直出荷農家としての期待を担う農業塾は、10 期生８名の塾生が８月に１年間の課程を修了し、９月から新たに第 11 期生９名を受け入れて研修を実施している。

農業インターンシップについては、実績なし。

種苗等生産事業の自然薯むかご生産については、愛知県園芸振興基金から委託を受け、受託数量 100，000 粒を下回る 72,900 粒となった。

菌床ブロック生産事業では、本年度より３名が新たに栽培を開始し、生産量が増加しているが、原材料、燃油電気料等の高騰により製造コストが大幅に上がっている。そのため、令和５年度受注分より、菌床代金の値上げを行ったが、引き続きコスト削減に努めていく。

収益事業の自然薯栽培では、前年を上回ることができ、菌床しいたけ栽培については、昨年に次ぐ売り上げを達成した。なお、燃油高騰に対して、林野庁の燃油価格高騰対策支援金事業により補填を受けることができた。

Ⅱ　事業内容

１.農地利用集積円滑化事業

①　農地中間管理事業の改正を受けて、農地利用集積円滑化事業から農地中間管理事業へ移行したため、保有面積は減少した。今後も、満期等を迎える農地について、農地中間管理事業へ移行していく。

単位：ha

内　訳	地目	令和５年度保有面積	令和４年度保有面積
賃貸借	田	13.69	47.53
	畑	2.81	3.41
	その他	1.37	1.37
	小計	17.87	52.31
使用貸借	田	2.52	10.52
	畑	0.25	0.41
	その他	0	0
	小計	2.77	10.93
合　計		20.64	63.24

②所有者代理事業による売買代理契約。

面積単位：㎡

種別	買入		売渡		未処分	
	筆数	面積	筆数	面積	件数	面積
田	0	－	0	－	0	－
畑	0	－	0	－	0	－
その他	0	－	0	－	0	－
農地合計	0	－	0	－	0	－

・令和５年度については、実績なし

２.農地中間管理機構業務受託事業

①　新規の農地や円滑化事業による満期を迎えた農地等について、農地中間管理事業への移行を行った。特に本年度は富岡地区において、担い手対策の圃場整備による円滑化の５年契約満期の更新を行った。地権者の相続案件が増えており、遠隔地等の市外在住も増加傾向にある。

単位：ha

内　訳	地目	令和５年度末設定面積 （機構保有面積）	令和４年度末設定面積 （機構保有面積）
賃貸借	田	211.89	173.92
	畑	2.66	2.42
	小計	214.55	176.34
使用貸借	田	112.84	105.23
	畑	4.21	4.09
	小計	117.05	109.32
合　計		331.60	285.66

３.地域農業者の支援に関する事業

（１）農作業受委託事業

受委託事業については、利用権設定の増加による委託面積の減少と小規模農家の高齢化による作付け面積の減少が続いている。また、稲採種契約面積も減少傾向となっている。

作業受託内容	Ｒ５年度実績	Ｒ４年度実績	公社	委託
耕起	1.7ha	3.3ha	○	○
代掻き	1.6ha	1.5ha	○	○
田植え	3.5ha	3.7ha	○	○
育苗	2,003 枚	987 枚		○
畝立て	0.6ha	0.7a	○	
刈り取り	10.5ha	12.9ha	○	○
採種刈り取り	13.6ha	18.2ha	○	○
乾燥調整	1,655 俵	1,771 俵		○
堆肥散布	8.7ha	17.4ha	○	

（２）担い手農家の育成・新規就農者受入れに関する事業

①　新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが、「第５類」に移行し、必要な対策は継続しながら、54 組が対面での面談を実施した。面談人数については、雇用状況が良いため全体的に少なかった。

※　参考データ

イベント名称	会場名	開催日	面談人数	備考
新農業人フェア	東京	R5. 7.15	9	
ﾏｲﾅﾋﾞ就農 FEST	名古屋	R5.10.14	12	
就農林相談会	新城	R5. 9.24	4	
新城市アグリチャレンジ	新城 岡崎 新城	R5. 7. 9 R5. 9. 3 R5.11.26	16 4 2	
現地説明会（トマト・ホウレンソウ）	作手	R5.10. 8	2	現地
現地説明会（イチゴ）	新城	R5.11.11 R6. 1.13	2 3	現地 現地
合　計			54	

②　昨年度に引き続き農業次世代人材育成支援事業による３名のイチゴ就農専攻研修生を継続した。内訳は前年からの第 10 期生 3 名が 2 月に終了し、3 月から国の産地パワーアップ事業を活用して就農した。研修期間中は、就農後の経営力を高めるための研修に努めた。

③　令和 6 年度の新規研修生見込者は、トマト１名（４月）を公社研修生 11 期生として登録決定した。

④　農業塾では第 10 期生 10 名を受入れ、農業技術や知識のない受講生に対して農業経営への関心・意識の向上を図るとともに、農地の有効利用や直売所の販売量や品目の充実化を目指し、多品種の栽培品目にチャレンジし令和 5 年 9 月、1 年間の農業実習を 9 名が修了した。同年 9 月からは、引き続き第 11 期生 9 名を受入れ、令和 6 年 9 月まで露地野菜を中心に栽培技術実習を実施中。

⑤　農業インターンシップについては、実績なし。

4.農林産物の種苗等の生産・供給に関する事業

（1）自然薯むかご受託栽培

愛知県園芸振興基金協会受託の自然薯原々種むかご栽培は現地指導会などにより栽培管理を行った。梅雨明け後の降雨が少なく、７月以降の高温が影響したことにより着粒が遅れ、受託数量 100，000 粒以上に対し、72,900 粒となった。

（2）自然薯一本種芋受注栽培

管内生産農家向け一本種芋栽培は、生産者の高齢化により受注本数が減少しているが、予約本数 3,890 本を完納することができた。（一本芋規格 30ｇ～100ｇ）

（3）菌床しいたけ菌床ブロック受注生産

令和５年度より栽培農家の３戸増加と一部増床があり、175，872 菌床の製造を行った。製造期間である１０月から５月において約 188,000 菌床製造する計画である。（４品種）

ただし、原材料、電気料、燃油高騰により製造コストが上がっており、令和５年度受注分より、１菌床当たり１０円の値上げとなっている。

品目	R5 年度実績	R4 年度実績
(1)愛知県園芸振興基金協会むかご受託栽培	72,900 粒	114,980 粒
(2)自然薯一本種芋受注栽培（*30ｇ～100ｇ）	3,890 本	4,293 本
(3)菌床しいたけ菌床ブロック受注生産	175,872 菌床	162,033 菌床

5.都市農村交流促進事業

（1）トウモロコシもぎ取り体験

夏休み期間中の作手地区の風物詩となり、体験需要も多いことから昨年度と同様に近隣遊休農地を確保し作付け本数 8,000 本を継続した。令和５年度は、台風被害もなく、リピーターも多く、高糖度のスイートコーンとして知名度も上がり、体験は前年並みの約 800 名となった。

６.農林産物生産事業

（１） 自然薯栽培事業

自然薯栽培事業においては、1,000 本を栽培。電気牧柵の段数を増やし、圃場内の排水路を深掘りした。日照条件の悪い圃場ではあるが、生育は順調で 212 kg収穫した。

総収穫量 212ｋｇ （前年 190ｋｇ）

（２）しいたけ栽培事業

しいたけ栽培事業では、公社供給菌床ブロックの検証栽培として夏出し 14,765 菌床、秋出し 22,138 菌床の栽培実証を行った。昨年をやや下回る出荷量となった。

総出荷量（ﾊﾟｯｹｰｼﾞｾﾝﾀｰ分のみ） 28,643ｋｇ（前年 31,387ｋｇ）

７.その他公社の目的達成に必要な事業

（１）イベント用ポップコーン種の栽培

面積 3ａ

（２）景観作物の栽培

菜の花栽培 15ａ

（３）作手小学校農業指導

小学生への稲作体験指導を行い、食べ物の生産過程を知るとともに感謝する食育を支援した。